

誰かが死んでくれればいい、
そんな思いで縁の下にもぐり込んでみると、
確かに誰かが死んだ後なのだろう、
その暗がりでは蜘蛛が糸を張っていた。
殻から抜け出ようとしている魂みたいなものでなく、
抜け出したものが透きとおった虫になって吊り下がっていた。
「蝦蟇の喉袋よ、かんべんしてくれ。
魚の脛よ、許しておくれ、
うっかりおまえらの悪口を言うところだった」

十
方
葉
秋

病めるめ
秋田
舞るめ
朗で
姫
を
する

寝たり起きたりの病弱な人が、家の中の暗いところでもいつも唸っていた。畳にからだを魚のように放してやるような習慣はこの病弱な舞姫のレッスンから習い覚えたものと言えるだろう。

「病める舞姫」を秋田弁で朗読する 米山九日生少年に捧ぐ

2010年 3月 9日 火 ザムザ阿佐谷 19:00 開演 [開場 18:30] 入場無料 (要予約)



土方巽『病める舞姫』

『病める舞姫』という魅力的なタイトルの著作は、舞踏の創始者、土方巽が雑誌「新劇」に連載した文学作品である。1977年から1978年にかけて、春に始まり冬に終わっている。

「私のからだ」の記憶にある故郷秋田の風土と生活、そして少年土方のからだ生き物やモノとの関わりが独特の文体と表現で綴られている。少年土方が体験したリアルな世界は、春から冬への季節はあるが年代はなく、灼けた道や雪道はあるが地名はない、ファンタジックな世界と化し、もはやメモワールでもバイオグラフィーでもなくなっている。

日常なのに摩訶不思議な時間と空間、モノがあふれているのに意味を喪失させるメタフィジカルな表情の文章。そこに、舞踏譜がすき間なく織り込まれている。森羅万象を踊りで表現しようとした土方は、この作品に踊りの記号を氾濫させ充満させて、解読を待っているかのようなのである。

出演

梅本 朱理
大谷 理奈
窪村 永里子
近藤 綾美
宮澤 由佳
山野井 優
吉田 峻
若山 晶子
*
カティア・チントツェ
岡田 桂子
森下 隆
*
柴田 義之 (劇団 1980)
上野 裕子 (劇団 1980)
*
山谷 初男 (特別出演)

構成

藤田 博

照明

中山 功

音響

斉藤 美佐男

舞台監督

翁長 諭

[協力]

劇団 1980、秋田県東京事務所

NPO 法人舞踏創造資源、

慶應義塾大学 DMC 機構、

西川 小百合、鈴木 テル、鈴木 一男

亀村 佳宏、本間 友

秋田弁で騙ること、語ること

東北は語り = 騙りの世界である。義太夫好きの父が舞踏の教師だったという土方巽も座談の名手で、騙ることにかけては人後におちなかつた。『病める舞姫』は口述筆記によって生まれた。はたして、口述していたときの土方のころのなかでは、秋田の言葉でモノが形象され、秋田の言葉で出来事が叙述されていたのではなかつたらうか。

そこで、果敢にいや無謀にも、『病める舞姫』に秋田弁で挑戦してみるのである。秋田弁で朗読することで土方の内面世界にスリッピンできるかもしれない、土方の舞踏譜の世界にからだごと没入できるかもしれない。九日生少年になって、秋田県旭川村の春夏秋冬を体験してみる実験的な試みである。

『病める舞姫』を秋田弁で読む。土方巽の誕生日。少年米山九日生に捧げる。

語る人、読む人

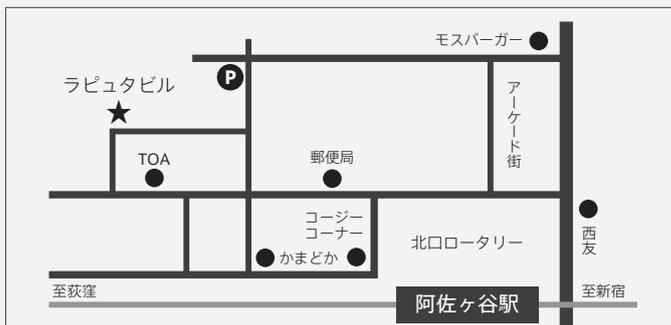
朗読も素人、秋田弁も素人という学生。土方巽の舞踏を大学のクラスで初めて知って驚き関心を寄せた。そして、『病める舞姫』という時空をこえた世界に秋田弁で降り立つことになった。朗読することのおもしろさを体感し、方言で語ることの軽い昂揚感を味わいつつ、一気に舞台に立って、土方巽自身も主張したエクスペリエンスを体験してみることに。それならばと、土方の“650experience”に倣い、観客の方々にも協力していただいて、“120experience”を劇場入口に掲げてみよう。

劇団 1980 を代表する俳優のお二人にも出演していただく。昨秋、都立青山公園でのテント公演「宇田川心中」での素晴らしい演技は学生たちの記憶にも新しい。まさにプロ中のプロである。

そして、秋田出身の怪優、はっぼんこと山谷初男さんに特別出演していただく。天井桟敷から無名塾までさまざまな舞台で活躍してきた異色の俳優、山谷さんの秋田弁は聞き惚れるばかりである。土方とともに、まさに秋田弁で騙る人なのである。

予約・問い合わせ

慶應義塾大学アート・センター [森下、真下、本間]
TEL:03-5427-1621 FAX:03-5427-620
www.art-c.keio.ac.jp maihime-ac@adst.keio.ac.jp



ザムザ阿佐谷: JR 中央線・総武線阿佐ヶ谷駅北口徒歩 2 分
東京都杉並区阿佐ヶ谷北 2-12-21 ラピュタビル 03-5327-7640

[主催] 東京都、東京文化発信プロジェクト室 (財団法人東京都歴史文化財団) 慶應義塾大学

[企画] 森下 隆 (土方巽アーカイヴ)

[運営] 慶應義塾大学アート・センター (渡部 葉子、真下 裕子)